

キャリア教育の改善・充実について

1. 特別支援学校高等部学習指導要領（平成21年告示）におけるキャリア教育・職業教育の充実
 - 産業現場等における長期間の実習を取り入れるなど、就業体験の機会を充実
 - 校内の組織体制の整備や労働・福祉等の関係機関との連携、地域や産業界等の人々の積極的な協力を得るなど、進路指導を充実
 - 学校、医療、福祉、労働等の関係機関が連携し、一人一人のニーズに応じた支援を行うため、全ての幼児児童生徒に「個別の教育支援計画」を作成することを義務付け
 - 知的障害者を教育する特別支援学校高等部の専門教科として「福祉」を新設（従前からある家政、農業、工業、流通・サービスに加えて新設）

特別支援学校高等部学習指導要領（平成21年3月告示）（抜粋）

（下線部は、平成21年改訂で新規記載事項）

第1章 総則

第2節 教育課程の編成

第4款 教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項

4 職業教育に関して配慮すべき事項

（3）学校においては、キャリア教育を推進するために、地域や学校の実態、生徒の特性、進路等を考慮し、地域及び産業界や労働等の業務を行う関係機関との連携を図り、産業現場等における長期間の実習を取り入れるなど就業体験の機会を積極的に設けるとともに、地域や産業界等の人々の協力を積極的に得るよう配慮するものとする。

5 教育課程の実施等に当たって配慮すべき事項

（6）生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、校内の組織体制を整備し、教師間の相互の連携を図りながら、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行い、キャリア教育を推進すること。その際、家庭及び地域や福祉、労働等の業務を行う関係機関との連携を十分に図ること。

（16）家庭及び地域や医療、福祉、保健、労働等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で生徒への教育的支援を行うために、個別の教育支援計画を作成すること。

第2章 各教科 第2節 知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校

第2款 主として専門学科において開設される各教科の目標及び内容

〔家政〕、〔農業〕、〔工業〕、〔流通・サービス〕、〔福祉〕

2. 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領及び解説におけるキャリア発達に関連する内容

○小学部・中学部学習指導要領解説において「進路指導が生徒の勤労観・職業観を育てるキャリア教育の一環として重要な役割を果たすものであること」が明記

○学校、医療、福祉、労働等の関係機関が連携し、一人一人のニーズに応じた支援を行うため、全ての幼児児童生徒に「個別の教育支援計画」を作成することを義務付け

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(平成21年4月告示平成27年3月一部改正)(抜粋)
(下線部は、平成21年改訂で新規記載事項)

第1章 総則 第2節 教育課程の編成 第4の2

(5) 教師と児童生徒の信頼関係及び児童生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに児童生徒理解を深め、生徒指導の充実を図ること。また、中学部においては、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、校内の組織体制を整備し、教師間の相互の連携を図りながら、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行うこと。その際、家庭及び地域や福祉、労働等の業務を行う関係機関との連携を十分に図ること。

(6) 小学部の各教科等の指導に当たっては、児童が学習課題や活動を選択したり、自らの将来について考えたりする機会を設けるなど工夫すること。また、中学部においては、生徒が学校や学級での生活によりよく適応するとともに、現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、ガイダンスの機能の充実を図ること。

上記(5)の解説

5 生徒指導及び進路指導の充実

(2)進路指導の充実

(略)

中学部における進路指導については、進路指導が生徒の生き方の指導であることを踏まえ、生徒の意欲や努力を重視することが重要である。また、進路指導が生徒の勤労観・職業観を育てるキャリア教育の一環として重要な役割を果たすものであること、学ぶ意義の実感にもつながることなどを踏まえて指導を行うことが大切である。

3. 現行学習指導要領及び解説における「キャリア教育」の用語としての記載

特別支援学校	幼稚部	小学部	中学部	高等部
学習指導要領	*	*	*	○
同 解説	*	○	○	○

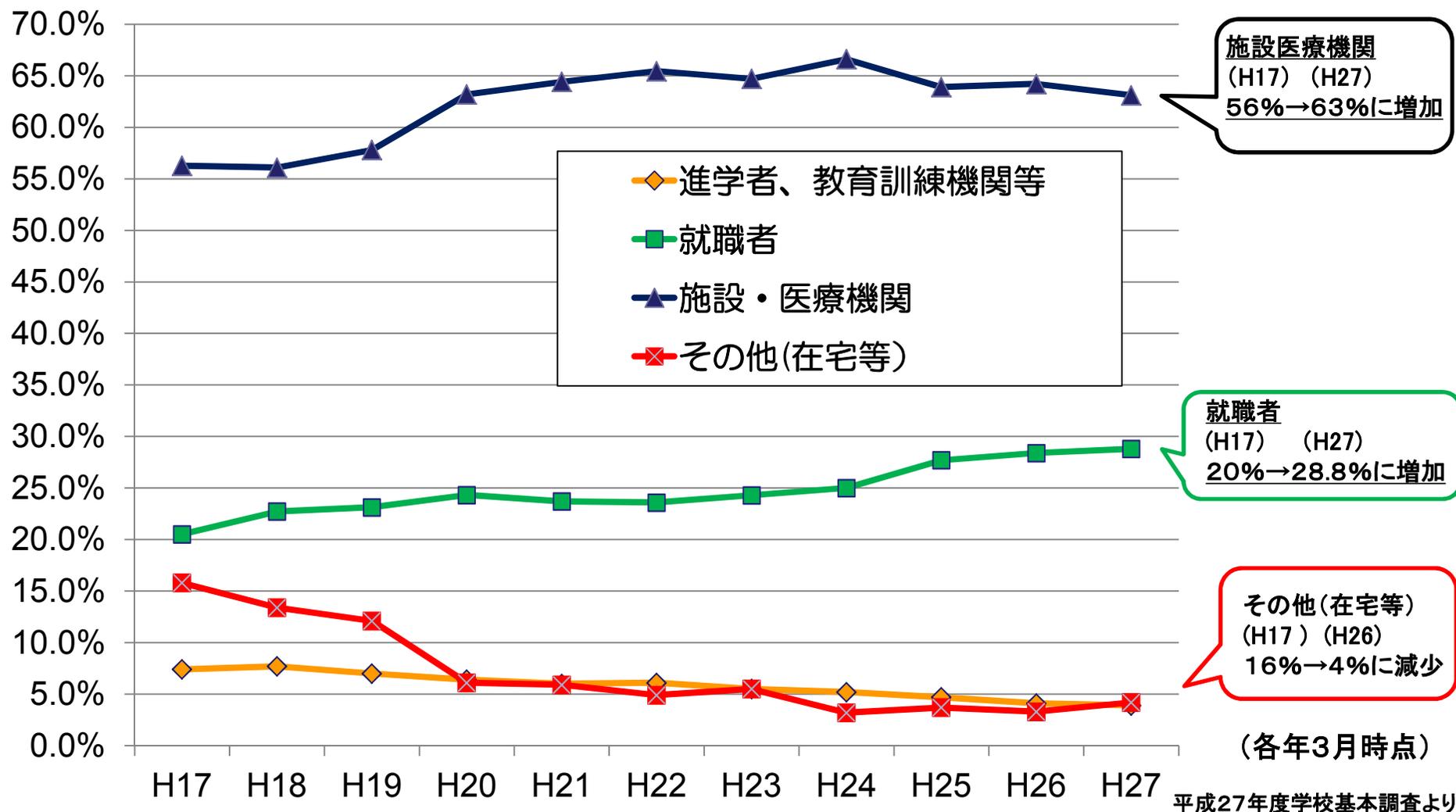
特別支援学校学習指導要領において「キャリア教育」という用語が位置付いているのは、高等部学習指導要領であり、小・中学部においては同解説において位置付いている。

平成23年1月「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(中央教育審議会)においてキャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」であることが示された。その中で、キャリア発達とは、「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」としている。

特別支援教育の現状① ～特別支援学校高等部(本科)卒業者の状況～

平成27年3月卒業者

区分	卒業者	進学者	教育訓練機関等	就職者	施設・医療機関	その他
計	20,532人	428人 (2.1%)	376人 (1.8%)	5,909人 (28.8%)	12,961人 (63.1%)	858人 (4.2%)



特別支援教育の現状② ～特別支援学校高等部(本科)卒業者の状況～

・就職者の割合28.8%(H17 20.5%)、施設・医療機関の割合63.1%(H17 56.3%)。

・福祉、労働等関係機関との連携を図り、キャリア教育・就労支援を更に充実することが必要。

(平成27年3月 卒業者) 人

区分	卒業者	進学者	教育訓練機関等	就職者	施設・医療機関	その他
計	20,532	428 (2.1%)	376 (1.8%)	5,909 (28.8%)	12,961 (63.1%)	858 (4.2%)
視覚障害	302	98 (32.5%)	13 (4.3%)	49 (16.2%)	110 (36.4%)	32 (10.6%)
聴覚障害	468	183 (39.1%)	28 (6.0%)	180 (38.5%)	66 (14.1%)	11 (2.4%)
知的障害	17,522	73 (0.4%)	267 (1.5%)	5,515 (31.5%)	11,002 (62.8%)	665 (3.8%)
肢体不自由	1,829	49 (2.7%)	32 (1.7%)	106 (5.8%)	1,553 (84.9%)	89 (4.9%)
病弱・身体虚弱	411	25 (6.1%)	36 (8.8%)	59 (14.4%)	230 (56.0%)	61 (14.8%)

平成27年度学校基本調査より

※四捨五入のため、各区分の比率の計は必ずしも100%にはならない。

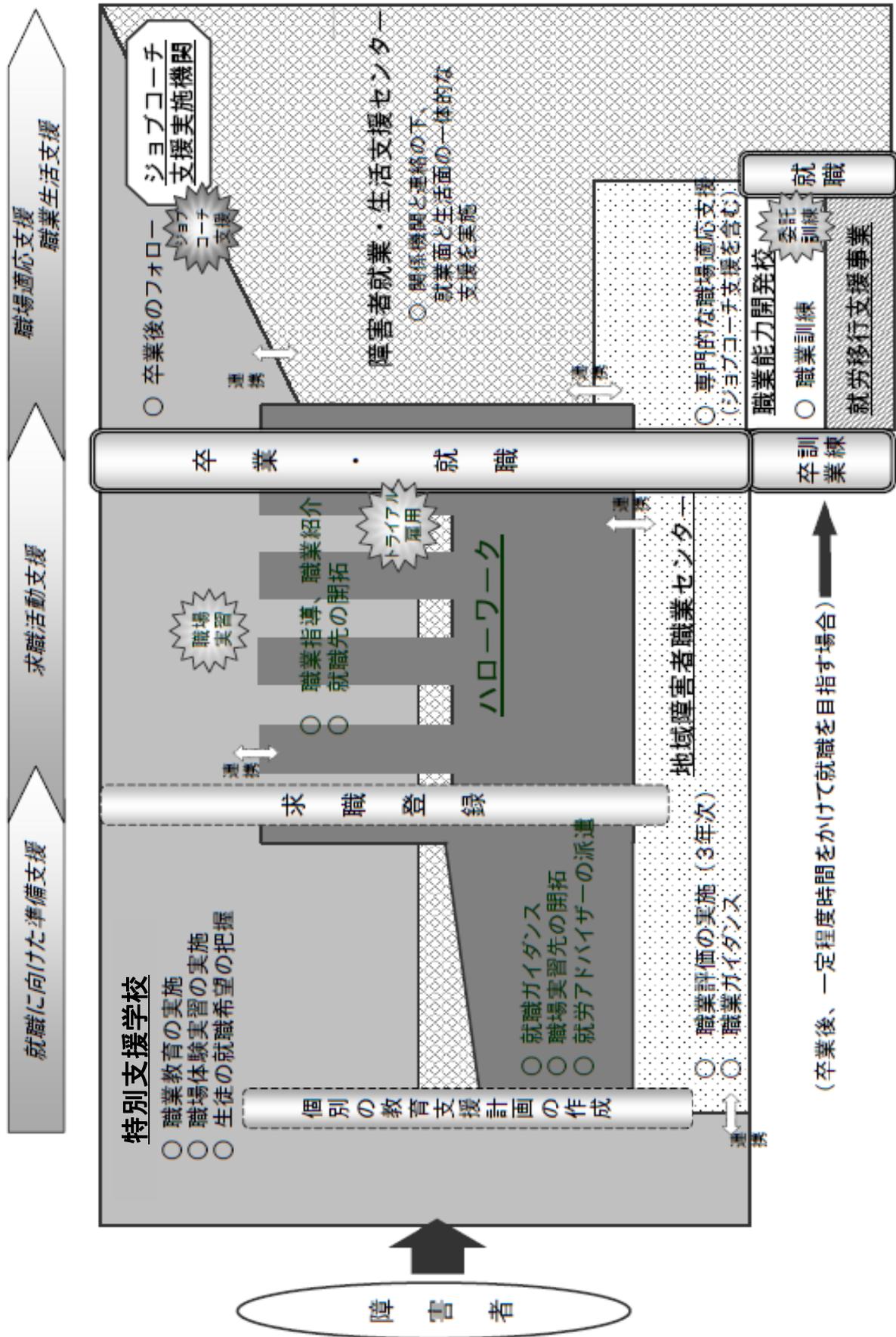
特別支援教育の現状③～特別支援学校高等部(本科)卒業者の職業別就職の状況～

(平成27年3月 卒業者) 人

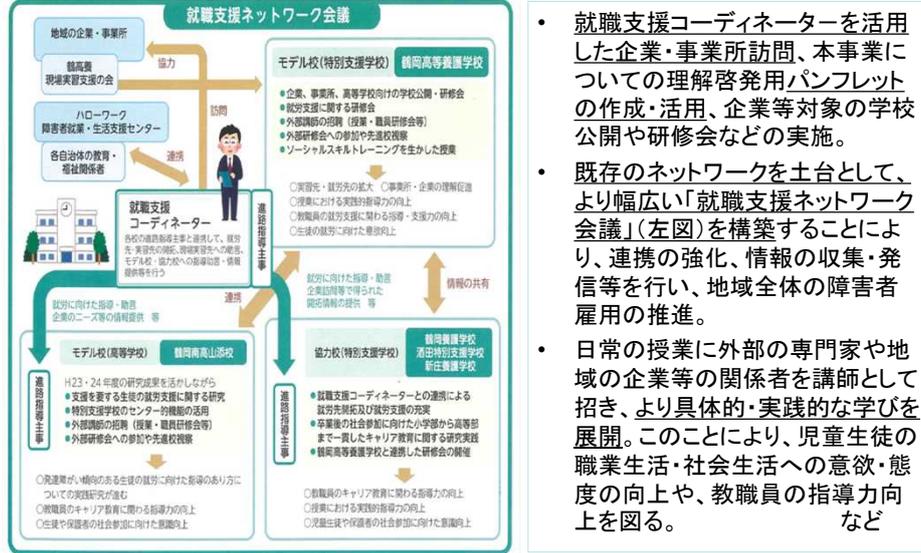
区分	計	専門的・技術的職業従事者	事務従事者	販売従事者	サービス職業従事者	保安職業従事者	農林業・漁業従事者	生産工程従事者	輸送・機械運転従事者	建設・採掘従事者	運搬・清掃等従事者	左記以外のもの
計	5,909	42	522	806	1,341	3	120	1,439	31	76	1,234	295
		0.7%	8.8%	13.6%	22.7%	0.1%	2.0%	24.4%	0.5%	1.3%	20.9%	5.0%
視覚障害	49	9	3	4	19	0	1	0	0	0	9	4
		18.4%	6.1%	8.2%	38.8%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	18.4%	8.2%
聴覚障害	180	0	35	4	13	0	2	117	0	0	5	4
		0.0%	19.4%	2.2%	7.2%	0.0%	1.1%	65.0%	0.0%	0.0%	2.8%	2.2%
知的障害	5,515	29	411	785	1,295	2	112	1,294	29	72	1,207	279
		0.5%	7.5%	14.2%	23.5%	0.0%	2.0%	23.5%	0.5%	1.3%	21.9%	5.1%
肢体不自由	106	1	68	7	9	0	3	7	2	1	5	3
		0.9%	64.2%	6.6%	8.5%	0.0%	2.8%	6.6%	1.9%	0.9%	4.7%	2.8%
病弱・ 身体虚弱	59	3	5	6	5	1	2	21	0	3	8	5
		5.1%	8.5%	10.2%	8.5%	1.7%	3.4%	35.6%	0.0%	5.1%	13.6%	8.5%

平成27年度学校基本調査より

特別支援学校卒業者が就職・定着するまでの標準的な支援



山形県の取組事例



- 就職支援コーディネーターを活用した企業・事業所訪問、本事業についての理解啓発用パンフレットの作成・活用、企業等対象の学校公開や研修会などの実施。
- 既存のネットワークを土台として、より幅広い「就職支援ネットワーク会議」(左図)を構築することにより、連携の強化、情報の収集・発信等を行い、地域全体の障害者雇用の推進。
- 日常の授業に外部の専門家や地域の企業等の関係者を講師として招き、より具体的・実践的な学びを展開。このことにより、児童生徒の職業生活・社会生活への意欲・態度の向上や、教職員の指導力向上を図る。 など

平成26～27年度文部科学省「キャリア教育・就労支援等の充実事業 報告リーフレット」より

山形県立鶴岡高等養護学校の取組

- 昭和61年開校の高等部単独設置の知的障害特別支援学校。学区は山形県の庄内・最上地区であり、県土の約半分をカバーしている。
- 毎年卒業生の80%以上が一般就労しており、職業教育・就労支援に高い実績がある。ハローワークや障害者就業・生活支援センターなどの関係機関との連携では「就労移行支援ネットワーク会議」を開催している。地域の企業や事業所との連携については、「鶴高養現場実習支援の会」が設立され、就労支援の充実が図られている。



校内実習「菓子箱作り」



プレ現場実習「食品加工会社での実習」

写真は、山形県立鶴岡高等養護学校作成パンフレットから

<http://www.tsuruokakoto-sh.ed.jp/sinro/hatarakasetekudasai/hatarakasetekudasai.pdf>

富山県の取組事例

- ・ 県内を文化・産業の特色からモデル地域を4地区に分け、各地区の特色を踏まえて高等学校段階のキャリア教育・就労支援を推進する。
- ・ これまで蓄積された特別支援学校のノウハウを基に、研究の成果を地区クラスター内の特別支援学校及び高等学校で共有・蓄積し、特別支援学校におけるセンター的機能の強化及び高等学校における特別支援教育の推進を図る。

就労支援コーディネーターの訪問企業数

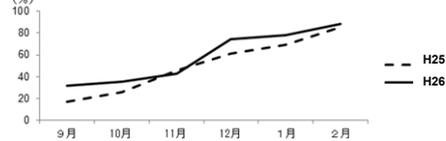
富山高等支援学校	341社/年
高岡高等支援学校	361社/年
合計	702社

就業体験受け入れ企業数	220社/31.3%
-------------	------------

平成26年度文部科学省「キャリア教育・就労支援等の充実事業 報告書」より



就職希望者の内定率の推移



富山県立高岡高等支援学校の取組

- ・ 平成25年4月に旧工業高校の校舎を改築して開校。
- ・ 作業学習に力を入れており、①ものづくり関連②食品加工関連③環境関連④流通・福祉関連の分野での実習を通して、実践的な働く力を身につけている。
- ・ また、就業体験については、1年次は校内就業体験(5日間)とトライアル就業体験(5日間2回)、2年次就業体験(合計4週間)、3年就業体験(合計8週間)を実施している。
- ・ 今年度からは校舎の一部を喫茶室に改装し、生徒の接客サービスによる「**えびcafé**」カフェを開店した。地域の方の利用も多く、評判である。



接客サービス用カフェに改装。地域の方が打合せの場として利用されることもある。



食品加工班。地元産リンゴ(写真左側奥)の皮むき。乾燥リンゴに加工して販売。

地域の事業所等と連携した学習の展開(例)



地域のパソコンリサイクル事業所と連携し、分解・分別を行っている。



生徒による分解の様子。慣れた生徒は、1台のパソコンを約25分程度で分解して、部品を分別している。

肢体不自由特別支援学校実践例Ⅰ

小学部の授業実践「総合的な学習の時間」

大学見学を通して、将来の夢や希望を持ち実現を目指して
努力しようとする力を育てる ～自分探しの旅へ 出発！～



1 キャリア教育における育てたい力

- ・将来の夢や希望を持つ（将来設計能力：小学部④）。
- ・将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする気持ちを育てる（意思決定能力：小学部⑤）。
- ・分からないことを調べたり、質問したりするなど、自分に必要な情報を探す（情報活用能力：小学部③）。
- ・自己の長所や欠点に気づき、自分らしさを発揮する（人間関係形成能力：小学部②）。

<主な配慮事項>

- ・将来のイメージが固定化しやすいことに十分配慮し、児童本人の興味・関心・能力に応じた情報提供を一層工夫する（共通領域：小学部②）。
- ・就職、進学両面から情報収集できるように、卒業後の多様な選択肢（就職先、進学先、労働訓練機関等）について知る機会を設ける（共通領域：小学部④）。

2 指導計画

学 習 内 容<5時間>	主な観点	能力領域			
		人間関係形成能力	情報活用能力	将来設計能力	意思決定能力
(1) 自分の夢や願いを個別の教育支援計画「サポートプランⅠ」にまとめる。	自己の現在の生活における課題、問題解決の工夫			○	◎
(2) 職業の種類を整理した職業マップ作りを行うとともに、なりたい仕事のイメージを持つ。	職業に対する様々な情報への関心・夢や希望・将来像の構築		◎	○	
(3) 特別支援学校卒業後の進路選択について考える。 地域の大学の見学 (車いすで学んでいる学生へのインタビュー)	情報収集・人との関わり コミュニケーション	◎	○		
①大学はどんなところ？	様々な情報への関心		○		
②車いすの学生に聞きたいことをまとめよう。	目標設定・様々な情報への関心		◎		○
③車いすの学生との対談（インタビュー）	場に応じた言動・意思表示	◎			
④大学での授業風景や図書館を見学	様々な情報への関心		◎		
(4) 大学見学のレポートを作ろう。	情報機器活用・伝える力		◎		○
①大学へ行ってきて、感じたこと、学んだこと。	振り返り・自己評価		○		◎
②今の自分の課題をまとめる。	課題解決・目標設定			○	◎
(5) これからの自分にメッセージを書こう。	自己理解・目標設定	○		◎	○

<配慮事項>

- ・筆記が困難な児童には、パソコンや代筆等の代替手段を活用する。

小学部段階から卒業後の進路先を見据えて、進路に関わる様々な情報を提供する機会を持つことをねらいとしました。総合的な学習の時間の中で、将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする機会となるように計画しました。子供たちは、自分の道を探しに歩き出しました。

3 学習展開の様子



大学での学習の仕方についての説明を大学の先生から受けている。



大学の図書館での閲覧や書庫を見学し、自分に必要な情報の収集の仕方を学ぶ。



車いすの学生から、自分なりに工夫できる道具についてアドバイスを受ける。



大学3年生の講義を見学し、大学での学習の様子を体験する。

〈大学見学を終えて「自分を考える」〉・・・児童のレポートから抜粋しています。

- ・人に頼む力と頼まないで自分でできる力を整理する。
- ・これからいろいろな努力や工夫をしなければいけないこと。
- ・とにかく笑顔で、たくさんの人とお話ができるようにがんばります。
- ・「自分も大学にいつてみたい」と希望を持って思えるようになりました。
- ・大学なら自由に学べて、夢を叶えられる場所だと感じ、自分も努力してみます。
- ・今は不安ばかりだけど、いろいろな経験をたくさんして、自信をつけたい。



4 成果

この指導計画では、将来の夢や希望の実現に向けた選択肢の一つである上級学校への進学をテーマに、地域にある大学を訪問しました。児童は、高等部を卒業してから学ぶことのできる上級学校について、知見を広めることができました。

この事例では、車いすで生活し学ぶ大学生から様々な助言を受け、困難を工夫しながら改善していくことの大切さを学びました。また、児童は、自分の将来の夢を実現するためには、「現時点で何をすべきなのか」と、自らの課題や目標を考える機会を持つことができました。将来の夢や希望に向けて新たに挑戦していく意欲を持ち、努力しようとする力を育てることができました。

中学部の授業実践「総合的な学習の時間」

ICT 機器を活用して、表現を工夫しながら情報を発信しようとする力を育てる ～地域の行事へ参加した感想をまとめよう～



1 キャリア教育における育てたい力

- ・将来の職業・進学を想定し、現在の学習の必要性を理解する（中学部：情報活用能力④）。
 - ・友達との協力関係で、物事に取り組む姿勢、経験を深める（中学部：人間関係形成能力④）。
- <主な配慮事項>
- ・自分の得意分野を生かしながら、意欲的に学習する習慣を身に付ける（共通領域：中学部①）。
 - ・自らの運動機能の制限を受容した上で、身体的機能の制限を補う、自らに適した手段や技能（パソコン入力等）を身に付ける（共通領域：中学部②）。

2 指導計画

学 習 内 容< 8時間 >	主な観点	能力領域			
		人間関係形成能力	情報活用能力	将来設計能力	意思決定能力
(1) インターネットを活用したかかし調べ	様々な情報への関心 インターネットの活用		◎	○	
(2) かかしの構想、話し合い (材料・デザイン・顔・文字・名前等)	集団参加・協力 コミュニケーション 役割の理解・やりがい	◎			○
(3) かかしの製作 (木材加工・新聞紙の貼り付け・着色等)	問題解決・工夫 選択・意思決定				
(4) かかしコンクールへの作品出品・見学	交通機関利用・マナー 金銭の活用 地域参加・地域理解	○	◎		
(5) パソコンを活用したかかし作りのまとめ	様々な情報への関心 目標設定（意思・意欲）		○		○
①プレゼンテーションソフトや文書処理ソフトの 活用例（2学期の予定・修学旅行）					
②文書処理ソフトの基本操作 (名前入力、文字色やフォントの変更等)	情報機器の活用 選択・意思決定		◎		○
③感想メモを作成しよう (活動画像の選択、感想文の構想)	読み書き・文章表現力 選択・意思決定		◎		○
④作品の制作活動（文字入力、画像や吹き出しの 挿入、音や動きの設定、デザインやレイアウト の工夫等）	情報機器の活用 選択・意思決定 問題解決・工夫		◎		○
⑤制作した作品を発表しよう	自己評価・他者評価	◎			○
(6) 文化祭への展示	やりがい・振り返り			○	

<配慮事項>

- ・プロジェクター、プレゼンテーションソフトを活用し、課題の内容や情報機器の操作方法の説明を視覚的に提示する。また、生徒の作品を投影し、お互いに評価し合う場面を設定する。
- ・キーボードをディスプレイに表示する機能やトラックボール等の入力支援機器を有効活用する。

中学部段階では、技術・家庭（技術分野）で、製作した作品を学校の地域で開催される行事「かかしコンクール」へ出品するとともに、出品会場の見学などの学習を計画的に行いました。事後学習では、ICT 機器を活用したまとめ学習を行い、文化祭等で地域の方々にも情報発信しました。

3 学習展開の様子



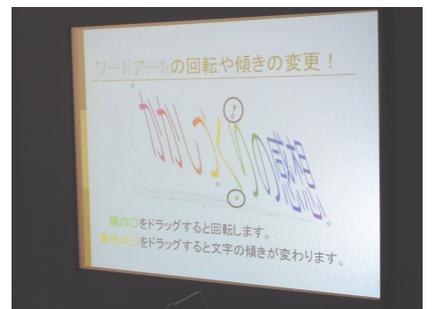
かかしの骨組みの製作。のこぎりで切った木材の面取りをするため、ベルトサンダーで角を削っている様子。かかしのデザイン・材料・名前等も生徒たちの話合いで決めた。



かかしコンクール見学。地域の方々や自分たちが製作したかかしの展示を見学する。表彰式では、代表が賞状等を受け取った。



生徒の実態に合わせ、カットテーブルや座いす等を使用し、学習に取り組む。



文書処理ソフトの操作説明。プレゼンテーションソフトを活用し、課題や操作方法等を提示しながら机間指導を行う。



制作した作品は、プロジェクターでスクリーンに投影し、工夫した点を発表して、友達からもアドバイスを受ける。



トラックボール等の支援機器を有効活用する。

4 成果

この指導計画では、かかしのデザインの様々なアイデアを話合いでまとめ、役割分担を行い製作した作品を、地域で開催される行事へ出品しました。生徒は、学校での成果を地域や社会の中で、生かしていく喜びを得ることができました。

この事例では、事後学習において、文書処理ソフトやプレゼンテーションソフトを活用して、かかし製作中の画像や会場への見学の感想をまとめる学習を実施し、ICT 機器の操作スキルを高めることができました。毎回の授業のまとめには、作品の途中経過をスクリーンに投影して報告し合い、生徒同士の自己評価や他者評価が活発になるように計画しました。